

心肺蘇生 男性を救助

港北消防 運動施設3人に感謝状

心肺停止状態となった男性を連携して迅速な救命処置で助けたとして、横浜市港北消防署は同区のスポーツ施設「ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE」で働く三人に感謝状を贈った。



三人は施設の運営会社代表の渡辺祥広さん(五)と従

業員の伊藤鉄平さん(四)、アルバイトで日本体育大二年の菅野哲平さん(三)。六月二十五日、施設でのスカッシュの試合後に審判を務めていた四十代男性が急にうずくまるように倒れた。

一緒に審判をしていて異常に気づいた菅野さんは、自動体外式除細動器(AED)を持って駆けつけた伊藤さんと交代で心臓マッサージを施し、渡辺さんの一九番で救急隊が到着した時には男性は意識を取り戻したという。

大学で心肺蘇生法を学んだばかりだったという菅野さんは「習ったばかりでこういう場に出くわすと思わず、冷や汗をかいた。練習していないと適切な対応は難しい。救命措置の大切さを知った」と話した。

感謝状を受け取った(左から)

菅野さん、渡辺さん、伊藤さん

横浜市港北区の港北消防署で

(神谷円香)